

第6回 「新たな「京都市動物園構想」の策定」検討会議 議事摘録

日時：令和元年12月19日（水）午前10時～正午

会場：京都市動物園 レクチャールーム

出席者：

【委員】

池田 泰子 市民公募委員
今村 礼子 市民公募委員
澤邊 吉信 岡崎自治連合会会長
中道 正之 大阪大学大学院人間科学研究科教授
福井 亘 京都府立大学大学院生命環境科学研究科准教授
藤井 容子 京都岡崎魅力づくり推進協議会 魅力情報発信担当マネージャー
松本 朱実 動物教材研究所 poket 主宰 近畿大学非常勤講師・研究員
森村 成樹 京都大学野生動物研究センター特定准教授
湯本 貴和 京都大学霊長類研究所教授・所長

（欠席）

本多 和夫 平安神宮 宮司

【事務局】

（文化市民局）

文化芸術政策監	北村 信幸
文化芸術都市推進室長	尾崎 学
文化芸術企画課長	藤田 智洋

（動物園）

園長	片山 博昭
副園長	坂本 英房
総務課長	岩田 貴子
種の保存展示課長	和田 晴太郎
生き物・学び・研究センター長	田中 正之
生き物・学び・研究センター	
主席研究員	山梨 裕美
総務課庶務係長	牛丸 昭
総務課	岩浅 拓也

【コンサルタント】

株式会社地域計画建築研究所	嶋崎 雅嘉, 原田 稔, 塗師木 伸介
---------------	---------------------

【オブザーバー】

（環境管理課）

生物多様性係長	岡本 賢吾
---------	-------

（公共建築企画課）

設備企画担当課長	田中 良幸
公共建築企画課課長補佐	樋口 博紀
建築企画第一係長	鈴木 美和子
電気企画係長	田中 靖啓
公共建築企画課	長島 薫

1 開会

資料確認

岩田課長

- ・本日はお集まりいただきありがとうございます。
- ・本多委員は所用により欠席である。後程、意見を紹介する。
- ・写真撮影について差し支えあればスタッフまで申し出ていただきたい。
- ・議事進行は座長にお願いする。

2 議題

(1) 市民意見募集の結果及び新構想の最終案について

湯本座長

- ・事務局より資料説明をお願いしたい。

(資料1) 新たな「京都市動物園構想」(最終案) 説明

本多委員の意見紹介

- ・動物福祉は人それぞれ捉え方が違うと思うが、現在の方向性は間違っていないと思う。
- ・イチモンジタナゴがどうやって琵琶湖から平安神宮に来たかということを子供達に伝えたい。
- ・動物園はテレビや図鑑と違い実際の大きさが分かる貴重な場所であるので大切にしたい。
- ・一方でアミューズメントパーク的な要素も必要ではないか。

岩田課長

- ・構想策定のスケジュールとしては、来年2月4日の文化環境委員会で最終案を報告し、2月28日に策定をする予定である。

湯本座長

- ・パブリックコメントは様々な意見が出るものだが、頻繁に来る人と来ていない人でどれくらい意見が違うのか気になる。

坂本副園長

- ・属性に関連付けた分析はまだできていない。
- ・ライオンの展示についての意見は、頻繁に訪れている人から幼い頃に訪れただけの人等の両方存在する。

池田委員

- ・アカゲザルとライオンについては、ニュースがあった後に私の周りの日常会話の中でも出てきている。ニュースの力を感じた。そういったことをあえて発信する動物園の肝の座り方はよいと思う。
- ・ライオンがいなくなることについては人間の感情から出ても仕方ない意見かと思う。

湯本座長

- ・天王寺動物園においてもゾウの展示を取りやめる等, 展示の廃止は京都市動物園に限ったことではない。

松本委員

- ・他のパブリックコメントと比較して, 数や属性に違いはあるか。

北村政策監

- ・経験的には100件が目安であるので多く意見をいただいたと感じている。

森村委員

- ・印象に残ったのは市民が直接関わりたいと思っているということである。しかし, その内容と本構想の内容は相入れない部分もある。
- ・市民が関わることについて議論があったら教えてもらいたい。
- ・すぐにではなくてよいが, 本パブリックコメントでいただいた意見に対しての回答を発信していくことができるとうい。意見を受け入れるだけでなく, 応答しながら齟齬を埋めていくことが大切。そういったことに本資料が活用されるとよい。

湯本座長

- ・動物園の考え方を発信する良い機会だと思う。
- ・意見を抽出し, よくある質問に対するQ&Aのようなものを作成するのもよいかもしれない。

片山園長

- ・p 6の理念において記載している「市民の皆様とともに…を目指します」という部分は多くの方々に関わってもらい, 多くの人に動物園の意義を発信, 伝え広げていてもらいたいという思いである。
- ・退園口の近くに意見を募集する箱を設置し, いただいた意見を係長級以上で共有している。パブリックコメントはそれらと一連の取組としてやっていきたい。

湯本座長

- ・パブリックコメントの5, 7番では研究は動物園の役割ではないという意見もある。79番ではコレクションプランは研究者目線である, という意見もある。園としては力を入れているところであると思う。市民に通じていないのではないかと思うがいかがか。

和田課長

- ・コレクションプランについてはまだ浸透していないように思う。まだ来園者が見たこともない動物を見たいという視点が重視されている。HPでも研究等を発信しているが, まだ伝わっていない。それらの関わりを伝えていく機会を増やすべきだとは考えている。

田中センター長

- ・自分たちの努力はまだ足りないということを突き付けられている。地道に努力していくしかない。

- ・園内で種の保存に関するイベントやワークショップをする等, 伝える活動はしているが, 外に届いていないというのは感じている。

湯本座長

- ・京都市動物園の活動が京都市内の生物多様性に対する姿勢に反映されるようになっていくとよい。

今村委員

- ・研究者目線の考えが伝わらないことについては, 興味のある人となない人では知識に違いがあることが原因かと思う。動物園からの発信が伝わっている人というのは興味のある人なので, アニメとのコラボのようなことをすることで興味のない人へ発信していく方法もあると思う。
- ・ZOOJO（ズージョ）という活動があり, 政策を変えるとかではなく, 動物園の楽しさを伝える活動である。もっと市民が自発的に楽しんでいく取り組みが必要と思う。
- ・紙博というイベントとコラボレーションする等, 全く興味がない人に発信していけるような工夫をしていけるとよい。

松本委員

- ・市民にとって自分ごととなっていない。p 35のネットワーク図には市民が含まれていない。中心に持続可能性を入れることで, 方向性についてはみんなで進めていくことであるということ伝えてはと思う。
- ・以前, いのちをつなぎ, いのちが輝くということをすべての軸にということを提案し, 採用してもらっているが, この言葉が理念に通じるということを柔らかくここで書ければよい。持続可能性に市民みんなが関わっていくというイメージを伝えられるとよい。

湯本座長

- ・理念, 柱の部分についてはビジュアルを含めて来園者やバスでの広告等で発信できるとよい。まだまだ20～30年前の動物園のイメージを持っている人が多いと感じた。動物園で働く人についても興味がある人も多い。ドラマにする等があるとよい。

中道委員

- ・大阪に住んでいると, ライオン, アカゲザルがいなくなることについてのニュースは聞こえてこない。いなくなる後に何をするのかを発信していく必要がある。
- ・多く訪れる小学校, 保育所, 幼稚園の方々がどれほど楽しんでいるのか, 意見を集めないといけない。あまり研究としてもされていない。なぜ動物園に来るのかを聞いてみると得られるものがあると思う。修学旅行生が多いが他園では多くないと思う。その気持ちについても分析しておきたい。
- ・構想が分かりにくい原因として, 時代の流れの説明がない。今までどのようなものがいたか等, 家系図のようなものがあるとよい。その中から続けるべきものと変わるべきものが見えて来る。
- ・海外の視点も入れたい。大型ネコについては何かの形で入れる必要がある。

湯本座長

- ・動物園というものがどうものであって, という動物園自体の歴史と役割の変遷, 海外のトレンドが分か

りやすく整理されるとよい。

- ・アカゲザルやライオンがいなくなることについては、いなくなった後に何を行っていくか、具体的にはその後整備するサルワールド、もうじゅうワールドについて書かれていないことも否定意見の原因となっているように思う。

和田課長

- ・最大で250種飼育していたが、減ってきている。現在は120種である。そして、それが適切であるかどうかコレクションプランで考えていかないといけない。
- ・サルワールドともうじゅうワールドについては内容を検討したうえで追記等できればと思う。

湯本座長

- ・昔の写真を掲載できると時代ごとの役割が分かりやすいのではないかな。

福井委員

- ・クロス集計は今後して欲しい。
- ・反対的な意見については資料に記載されているような回答だけではなく、真摯に対応していかなければならない。真摯に対応している姿勢をPRすることは大切である。
- ・HPについてはまず職員の家族等が見たことがあるのか。そういった身近な人から意見をもらってみてはどうかなと思う。まずそういった人が見てみたいと思うものにできればと思う。
- ・歴史性、文化性等の岡崎の地の利(外国人・修学旅行生が多い等)を発信できるとよい。

澤邊委員

- ・ロームシアター整備の時も様々な意見があった。全てに応えることは難しいので大事にすべきことを大事にして欲しい。
- ・ライオンがいなくなることについては浸透してきているがなぜいなくなることが伝わっていない。
- ・来るときに久しぶりにライオンの声を聞いてやはり展示を続けて欲しいと感じた。
- ・動物園にはまだまだ見世物という認識の人もいるのでそういう人がいることも。「いのちをつなぎ、…」はよい言葉だと思っていたが、今一度意味を考え直すとよくわからないなとも思った。

湯本座長

- ・一つの見方を押し付けるのではなく、あえてあいまいな言葉でみんなが動物園のことを考えるきっかけになる様なものだと思う。

池田委員

- ・柱が個々で独立しているのではなく、結びつきが分かるようになるとよい。丸い輪がパズルのようになっている等、見せ方の工夫ができるとよい。

湯本座長

- ・当初そういった図があったように思う。

坂本副園長

- ・柱の連携については構想 p 3 7 に掲載している。それぞれ結びついているものだと思うのでさらに伝わりやすい方法を考えたい。

湯本座長

- ・パブリックコメント 1 6 6 番の挨拶ができていないという趣旨の意見があるが、本当にできていないのか。
- ・パブリックコメント 1 7 9 番に喫煙の問題も挙げられているがどのような対応をしているか。

坂本副園長

- ・園内に喫煙場所はない。今は園内全面禁煙なので、来られたのがかなり前の方なのかもしれない。

今村委員

- ・以前、自転車置き場で来園者でもない人が喫煙していた。それを見た人なのかもしれない。

藤井委員

- ・京都市動物園は努力していると思うので自信を持って欲しい。
- ・伝えるプロではないので予算をつけ、プロに任せればよいと思う。本来すべきことに集中できる環境を市は整えてあげて欲しい。
- ・ZOO JO（ズージョ）についても楽しそうな取り組みである。
- ・コレクションプランに関しては頭ごなしに世界の潮流を伝えても分からないので、対話のきっかけになるとよい。
- ・京都市動物園の来歴は構想から見えてこないが、1 1 0 年史等で文章と写真等で紹介されており、とてもよいものなのでその内容、若しくはそういうものがあることを伝えていけばよいと思う。WEBに公開されてもよい。

湯本座長

- ・負の歴史も含めて、発信していけるとよい。
- ・池田委員は退席されとのことだが、資料 3 動物福祉に関する指針について意見はあるか。

池田委員

- ・動物福祉が今後更に重要なことになってくるのではないと思う。
- ・きちんと対話をしないと非日常やレジャー性を求める人と動物福祉を重視する動物園とで意識が離れてしまう。
- ・ニュースで流れたことがチャンスだと思う。話題になっている問題であり、メディアに出て、難しい言葉ではなく、伝わる言葉で動物福祉について解説してもらえるとよい。
- ・来月、京都市動物園をテーマとしたデザインの展覧会を開く予定だが、生き物のために何かをやりたい人が参加できるようになるとよい。

-池田委員退席-

湯本座長

- ・人的なネットワークを駆使して、職員が疲弊しない方法を実践して欲しい。

(2)その他

資料3説明

湯本座長

- ・本資料は基本的に来園者の目につかないものかと思う。

中道委員

- ・指針をつくるのは素晴らしいことかと思う。表現も平易でわかりやすい。
- ・参考文献についても和訳を入れるとよい。
- ・動物の移出先をどのように判断するかという部分については「現状の福祉レベルを低下しない」という文言を入れた方がより具体的でよいのではないか。
- ・パブリックコメント85番では動物にとっての幸福についての疑問が記載されている。それに応える必要がある。必ずしも擬人化した表現をする必要はないが、具体的に感じやすい方法で表現できるとよい。自分に置き換えて考えられると理解しやすいと思う。

湯本座長

- ・動物福祉委員会に外部委員をいれたほうがよいと思われるか。

中道委員

- ・一般の人を入れられる方がよい。アメリカの動物実験委員会では一般の人が入っていて、それらの人でも理解できる言葉で説明されている。

湯本座長

- ・動物福祉委員会が動物園内部の人だけでよいのか検討して欲しい。

-中道委員退席-

松本委員

- ・動物とのふれあい時間は1個体最大20分とあるが、根拠はあるのか。

山梨

- ・20分については現状の園規定であるものであり、具体的な根拠は分からない。ふれあいの時間が40分なのでその半分で交代できるようにということかと思う。それがわけではないので今後随時見直していきたい。
- ・動物のストレスを計測しているが、今のままではダメだと認識している。科学的な数字と市民との感覚に乖離があるので埋めていかなければならないと思っている。

湯本座長

- ・動物福祉委員会もよいが、色々な形で対話する場があってもよい。
- ・日本では自然保護と保全と動物愛護がごちゃごちゃになっている。対話の糸口を出すのも動物園の役割だと思う。
- ・動物福祉委員会に一般の人を入れることは少し懸念するが、市民的感觉も持ち合わせている人を入れるのはあってもよい。動物園反対派の人もいるので人選は難しい。

澤邊委員

- ・以前、動物の曲芸というのがあったが、それは福祉上、動物の感情上どうなのか。

坂本副園長

- ・以前は曲芸をしていたようであるが、現在、本園では行っていない。以前の曲芸のためのトレーニングは指示に従うかどうかで褒美が与えられたり、叱ったりしていた。しかし、ストレスをかけることになるので時代的に許容されないかと思う。
- ・現在、ハズバンダリートレーニングというものがあるが、トレーニングは個体が望んでやってくれるようになっている。それをお客さんが曲芸的なものとして捉えてもらえるのであればよいと思うが、無理やりやらせるものではない。

澤邊委員

- ・家庭で犬にお手をさせることも福祉上よくないのか。

坂本副園長

- ・やり方次第であるが、お手をするとご褒美をあげることで成り立っているので大丈夫かと思う。コミュニケーションの手法だと思う。

澤邊委員

- ・福祉を重視していくとサーカスや水族館のような文化がなくなっていくように思う。

湯本座長

- ・猿回しが伝統文化という人もいるし、虐待という人もいる。新しい動物園の文化の中でそれらをどう位置付けるかという議論が必要である。正解はないように思う。
- ・何がエンリッチメントとなり、虐待となるかについて研究することも含めて進めていければよい。

福井委員

- ・全国的にやられていない取組ということで園の特徴に繋がっていくと思う。
- ・動物福祉委員会の役割について図化できると分かりやすくよい。

湯本座長

- ・これから京都市動物園で新しく働く方には必ず学んでもらい、単に読むだけではなく、後で設問に答えてもらう形式で理解を確認できるようにする等できるとよい。

松本委員

- ・アカゲザルについてはサル山の空間をよいと感じられていると思う。ライオンについても思い出があって意見を言っている場合もあるかと思う。学べるということだけではなく、交流や対話という言葉が入るとよいように思う。

湯本座長

- ・動物園を思い出として語る人は多い。人々の思い出となっている経験を集めてみるとよいかもしれない。そこから見えるメッセージもあるかと思う。

森村委員

- ・福祉の基準については静的なものではなく、常に変化していくものかと思う。

澤邊委員

- ・私も母親とアカゲザルについて話したことを覚えており、自分の子供にも同じような思い出がある。そういったように世代間で繋がっていくことが、いのちをつなぐということだと思う。
- ・子供から大人までと文章についてはどこまでが大人であるのかが分かりにくいので、全ての人という言葉を入れてもらえればと思う。

岩田課長

- ・ありがとうございました。今後意見をふまえ、市長へ報告、策定していきたいと思う。

北村政策監

- ・京都市ではあらゆる分野で持続可能性がキーワードになってきている。その中で岡崎は注目を集めており、存在感を発揮できるようにしていきたい。
- ・年明けには予算委員会がはじまる。サルワールドの整備についても進めていきたい。
- ・ありがとうございました。

岩田課長

- ・本日はみなさまありがとうございました。閉会とします。

3 閉会